



Title	台湾活動記録（2019年8月31日～9月12日）
Author(s)	大坪，慶之；片山，剛
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2021, 10, p. 127-129
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84929
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(2) 台湾活動記録 (2019 年 8 月 31 日～9 月 12 日)

大坪慶之・片山剛

8 月 31 日 (土) 【関空発⇒台北着】エバー航空 BR131 便など

片山剛 (大阪大学名誉教授)・稲田清一 (甲南大学教授) が関西国際空港から、大坪慶之 (三重大学准教授) が中部国際空港から台北に到着する。国際学会での発表のため先着していた山本一 (立命館大学講師)・藤澤聖哉 (大阪大学特任研究員)、別科研にて台北滞在中の田口宏二郎 (大阪大学教授) と合流する。宿舎は、福華国際文教会館。

9 月 1 日 (日) 台湾大学図書館 (台北市大安区)

全員で台湾大学図書館へ行き、調査を開始する。片山・大坪は、翌日からの国史館調査に備え、南京市の中華路に関する情報を収集する。他のメンバーは、これまでの研究に関連する文献を閲覧する。

9 月 2 日 (月) 国史館 (台北本館・台北市中正区)・国民党党史館 (台北市中山区)

片山・稲田・大坪・山本・藤澤の五名で国史館へ行く。まず、春の調査後に申請していた登記文書から閲覧を開始する。場所は、第 3 区から第 4 区にかけての中華路沿いの地域である。ここは登記文書が国史館に、地番の連続するかたちで所蔵されている可能性が高く、位置を確認しつつ順次エクセルの表にデータを入力していく。田口は先週に引き続き、国民党党史館で調査を行う。

9 月 3 日 (火) 国史館 (台北本館)

総勢六名で国史館へ行き、昨日の作業を継続する。中華路沿いの地域の登記文書を閲覧しつつ、必要箇所のダウンロードを開始する。3 月までとシステムが変わり、画像一枚ずつではなく一括で PDF にできるようになったものの、不要ページの除外などに慣れないこともあり、保存方法に手間取る。

9 月 4 日 (水) 国史館 (台北本館)・国民党党史館

月曜日と同じく、二班に分かれて活動する。片山・稲田・大坪・山本・藤澤の五名は、国史館にて閲覧を継続する。また、昨日までにダウンロードした画像を購入する。ダウンロード数が予想を超えて多くなり、支払も高額になる。田口は国民党党史館へ行き、史料を閲覧する。

9 月 5 日 (木) 国史館 (台北本館)・台湾大学図書館

昨日同様、二班に分かれて調査を継続する。国史館での作業は、中華路附近の登記文書のデータ入力が終わった者から順に、別地域の文書の閲覧に移る。一方、ダウンロード枚

数はさらに 1700 枚増え、膨大な量になる。

9 月 6 日（金） 国史館（台北本館）・国民党党史館

昨日の作業を継続する。この日までに、予定していた中華路沿いの登記文書の閲覧を完了する。

9 月 7 日（土） 自由行動

国史館が休みのため自由行動とし、各自で休息を取ったり、図書館へ行ったりするなどして過ごす。

この日、田口が帰国する。

9 月 8 日（日） 台湾大学図書館

午前中に、先週の調査をふまえてミーティングを行う。そこではまず、作業の進捗状況および国史館における中華路沿いの文書の所蔵状況を確認したうえで、各自が登記文書を閲覧する中で発見したことや考えたことを述べ、みなで議論する。午後からは、台湾大学図書館へ移動し、翌日からの調査へむけて各自が準備を行う。その際、『南京市政府公報』をはじめとする近代の報刊資料に関するデータベースが使用できることが判明し、作業が大いにはかどる。

夜、陳慈玉教授（中央研究院近代史研究所）・于志嘉教授（同歴史語言研究所）と会食する。なお、陳教授からは、科研チームの成果である『近代東アジア土地調査事業研究』（大阪大学出版会、2017 年）に関する書評を書いていた（陳慈玉《近代東亜土地調査事業之研究》、復旦大学・中国地理学会編『歴史地理』第 37 輯、2018 年第 1 期、上海人民出版社、所収）。

9 月 9 日（月） 国史館（新店・新北市新店区）

五名で国史館の新店閲覧室へ行く。この日は、各自が申請済みの原文書を調査する。南京の測量や道路建築および契拠類、上海の地政、日中戦争中に日本に協力した人に関する史料を閲覧するも、新発見につながる記述を見つけることができなかった。

9 月 10 日（火） 国史館（台北本館）

国史館の台北閲覧室に行き、南京登記文書の閲覧を再開する。この日の作業で、事前に申請しておいた分のエクセルデータ入力を、ほぼ完了させる。

夜、中央研究院人文社会科学研究中心研究副技師の廖法銘氏と会食し、（本研究プロジェクトの関心に近い研究者として、南京大学の陳剛教授等についての情報を提供してもらう）。また撮影機材を次回調査まで預かっておいてもらえるようお願いする。

9月11日（水） 国史館（台北本館）・台湾大学図書館

午前中は、国史館の台北閲覧室へ行き、ダウンロードした登記文書の画像を購入する。また、日中戦争後の1946～48年に作成された分段地籍図のうち、中華路附近のものを閲覧し購入する。午後は台湾大学図書館へ行き、それぞれの研究に必要な資料を閲覧・入手する。

夜、勤務校での仕事のため台湾滞在中の城地孝氏（同志社大学文学部助教）と会食する。

9月12日（木） 【台北発⇒関空着】エバー航空 BR130 便など

片山・稲田・大坪・山本・藤澤の五名が、調査を終え帰国する。

（付記）なお2020年3月に、片山・藤澤は3月10日（火）～24日（火）の予定で、山本は3月10日（火）～18日（水）の予定で、小林・稲田は3月10日（火）～15日（日）の予定で、それぞれ台湾出張の計画を立てていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、出張計画を中止した。引き続き2020年度も国史館を中心に台湾へ出張を予定していたが、これもコロナ禍のため、2021年1月時点で実施できない状態である。